

生活科部の活動

部長 猪股 和子（外ヶ輪小）

I 研修テーマ

自分の思いをもち、生き生きと活動する子どもの育成

II 研修内容

1 実技実習

1年「かぜであそぼう」のおもちゃ作り

講師 三市北蒲原郡地区理科センター専任所員

長谷川 徹 様

(1)実習内容

風で遊ぶ活動のポイント、おもちゃ製作の材料と道具、工作の技術、風を使って遊ぶおもちゃについてご指導をいただいた。その後、実際におもちゃを製作し、遊びを体験した。



(2)成 果

- ・実際に作ってみることで、材料の特性や作るときのポイントやつまずき、遊びの楽しさや難しさ、材料の準備や遊びの場の設定の大切さについて認識を深めることができた。
- ・製作したおもちゃが、即、実際の授業に教材として活用できた。

2 授業研究

授業者 新発田市立紫雲寺小学校 教諭 津島 厚子先生

指導者 阿賀野市立保田小学校 校長 相馬 重輔先生

(1) 授業の実際 ～1年「かぜであそぼう」～

○本時のねらい

帆を作り直す活動を通して、風で動く車を遠くまで走らせることができる。

○指導の構想と子どもの姿

研修テーマ「自分の思いをもち、生き生きと活動する子どもの育成」をめざす手立てとして、①活動の見通しと意欲をもたせる見本の提示 ②材料の充実（材料工場） ③レース場の設定 ④工夫の共有の場の設定の4点を設定した。

子どもたちはより遠くまで走る車にしようと「試す」と「直す」を繰り返しながら意欲的に活動した。試しながら、帆の材質や大きさ、風の受け方などを工夫する姿が見られた。

(2)成果と課題

- ・帆になる材料が充実していたこと、レース場の十分な広さや目盛りの設定により、子どもたちが意欲的に活動できた。
- ・活動の中で帆の材質や大きさ、数、向きなど様々な工夫が見られた。それを取り上げ、理由を尋ねたり発表させたりするとよい。それにより思考が深まる。
- ・見本の提示で、最初により遠くまで走らせる方法について結論を出してしまったが、結論を出すために活動する方がよい。活動に必要感があり、更に意欲が高まる。見本は控えめにする。
- ・本時は時間がなくワークシートに自分の工夫を書く活動ができなかったが、言語で表現させるとよい。そうすることで気づきを自覚させることができ、工夫の交流も深めることができる。